



朝陽地区 社協だよい

覧

H29.5.1

No.39



隣近所、支え合い住んで良かった朝陽地区！

発行 朝陽地区社会福祉協議会
 共催 朝陽地区住民自治協議会
 社会福祉部会
 長野市大字北尾張部226-9

平成28年度朝陽地区

社会福祉大会開催！



↑ ハンドベル演奏 えがおの会の皆さん



↑ 講師:片桐 美登氏(上伊那圏障害者支援セ

参加者の皆さん →

朝陽地区社会福祉大会は2月25日、傾聴グループえがおの会の皆さんによるハンドベル演奏ではじまりました。支え合いがテーマの今年度は、最初に桜新町区古川区長から「支えあいマップづくりの取り組み」を報告していただきました。

9月に行われた「支え合い マップ」研修会で模擬演習を体験してから、まず一人住まいの独居の人を対象にした緩やかな見守り活動に着手。区長提案で「桜新町支えあいまちづくり委員会」規約を作り、各丁目ごとに何度かの説明会を実施して、住宅地図に落とす作業に入っているとの説明がありました。

講演会は、講師片桐美登氏（上伊那圏域障害者総合支援センター所長）による～地域での支えあいと地域コーディネーターの必要性～でした。

今、私たちが暮らす地域は、1.地域課題の山積、2.深刻な財政難、3.人間性の危機があげられている。少子・高齢化、孤独死や自殺、社会的孤立、引きこもり、虐待や悪徳商法などきりがない。国、地方財政の借金は増加、介護保険料も負担増となっている。人間は家族という集団から、複数の家族集団による地域へつながっている。その中で子供を育て、生き延びるためににはすべて分かち合うことが大切。

これから福は住民が支え合い、それで足りないとこを、公的サービスが補強する地域が必要、そのためにコーディネーターは「助けて」と言えるように、困りごとを察して何気なく支えるのが役割とのこと。「空き缶を拾う人になってください」と言う最後の言葉が印象的でした。

当日の参加者は97名。また、会場の壁面には各種ボランティア団体の紹介、福祉推進員活動紹介のパネル掲示がありました。



裏面もご覧下さい

認知症サポーター養成講座

3月17日、講師陣の地域包括支援センター・コンフォートきたながいけスタッフによる認知症サポーター養成講座が開催されました。

「認知症サポーター」は、講座を受講した人で、特別な何かをする人でなく、認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守る「応援者」です。

2025年には65歳以上の5人に1人が認知症になるとと言われております。認知症は老化や、病気によって、脳の機能が低下する障害です。

講座では、包括支援スタッフや朝陽地区社協役員が加わり、寸劇を演じて下さり、分かり易く、徘徊や親子関係などユーモアを交え、認知症の症状、認知症の人への接し方など、楽しい講座を受けることができました。

慣れないと不安ですが、明日は我が身。。。と機会あるごとに努力したい。 36名が受講して、最後に受講証としてのオレンジリングをいただきました。



朝陽地区オレンジカフェ

まめカフェ

参加費 100円 (1ドリンク+デザート付き)

開催 毎月第1木曜日 10:00 ~ 12:00

認知症の専門スタッフや、地域のボランティアさん
が皆さんのお越しを笑顔でお待ちしています
どなたでもお気軽に立ち寄りください

社会福祉法人 花工房福祉会
多機能型事業所 エコーンファミリー
(障がいのある方たちが働くカフェ)
長野市北尾張部531 おまめ喫茶そいてい

- 国道18号線「木工団地入口信号から1分
- セブンイレブン「長野木工団地入口店」向かい
- 駐車場5~6台完備(朝陽支所駐車場徒歩3分)

